

5月 ひなぎくだより



新年度がスタートして、あっという間に2ヵ月が経ちました。ひなぎくグループは慣らし保育が終わり、14時までの通常保育が始まりました。お家の方と離れることが不安で涙がこぼれるお友だち、少しずつ園生活に慣れ始めたお友だち、様々な姿を見せてくれています。子どもたちが一生懸命に表してくれる『楽しい』の気持ちも、『不安』の気持ちも、大切に受け止めながら、日々を過ごしていきたいと思います。

先日、たんぽぽ組のお友だちが、「私ね、おっきくなったら千鳥幼稚園の先生になって、ひなぎくさんの先生になりたいの」と教えてくれました。どうしてそう思ったのかと聞いてみると「だってひなぎくさん、かわいいんだも〜ん！」とのことでした。

頼ることで憧れを抱いたり、頼られることで自信を持ったり、今まで感じたことのなかった愛おしい気持ちが芽生えたり、そんな姿をよく見かけるようになりました。



せんろはつつくよ
どこまでも〜♪
お歌をうたいながら
線路を作ったよ

ありのままを受け入れる

4月のひなぎくだよりに、〈ありのままを受け入れることを大切にしています。〉と書きましたが、『ありのままを受け入れる』って実際にどうすればいいのか難しいですね。

『ガンピーさんのふなあそび』という絵本をご存知ですか？ガンピーさんの乗っている船に、うさぎやねこ、ぶた、にわとり、次々に動物たちが乗り込み、最後には船がひっくり返ってしまう、繰り返しの楽しい絵本です。動物たちの「ぼくもふねにのせて」の言葉に対し、ガンピーさんは「いいとも、でも、どしんどしんあるきまわるんじゃないよ」「いいとも、でも、ねこをいじめたりしないでね」と、必ず【気持ちを受け止める】言葉を先に伝えるんです。なんだか心がホッとしますよね。

子どもたちが予想外の行動をとったとき、「〇〇したくない」と言ったとき、私たち大人は、子どもの安全や、これからのことを考えるあまり、「でも」「それは」と否定の言葉をかけてしまいそうになります。そんなときこそ一度立ち止まって、「そうだよね」「いいよ」と気持ちを受け止めることを忘れないでください。そして、「でも、〇〇ちゃんのこと大好きで、大切だから危ないことはしないで欲しいんだ」と思いを伝えるようにしています。それでも、すんなりと「わかった！」になるとは限りませんが、お家の方や先生が「そうだよね」「〇〇したいよね」と否定せずに気持ちを受け止めてくれたことは、きっと心に残り続けると思います。